

令和 7 年度 旧東清掃事業所解体工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査に係る出土品等整理作業補助業務委託仕様書

1 目 的

この仕様書は、旧東清掃事業所解体工事に伴う発掘調査で作成された記録類及び出土品について、考古学的手法を中心に既往の学術的な成果に基づいて、整理、分析を行う出土品整理作業に係る補助業務の実施について、必要な事項を定める。

2 基本事項

- (1) 本業務に掲げる業務の基本的な仕様は、文化庁の「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（平成 16 年 12 月 20 日 16 庁財第 312 号 文化庁次長通知）」及び「神奈川県内における開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査基準（令和 4 年 3 月 4 日最終改正）」（以下「調査基準」という。）に定める事項に基づくものとする。
- (2) 受注者は、埋蔵文化財の整理作業を円滑に行うことが出来る整理担当者を配置する。なお、整理担当者については神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財発掘調査に係る調査主体者及び発掘担当者の判断基準に基づき、整理担当者としての的確な者を選任すること。
- (3) 受注者は、業務の実施にあたり出土品整理作業の経験をもつ調査員を現場代理人として配置し、発注者の指示に基づく工程管理、技術管理等を行う。なお、現場代理人は上記した整理担当者と兼任することが出来る。
- (4) 受注者は業務実施上、必要となる施設等及び費用のすべてを負担すること。

3 業務委託期間 契約の日から令和 8 年 3 月 19 日まで

4 業務作業場所 受注者の作業所内

5 業務対象資料

(1) 遺跡内容及び出土品の概要

ア 鵜野森柏木北遺跡第 2 次調査

時代：奈良～平安時代

遺構：奈良～平安時代：竪穴住居址 7 軒、掘立柱建物址 3 棟、柱穴列 1 棟、  
土坑 13 基、ピット 19 基

遺物：縄文時代 縄文土器

奈良～平安時代：土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品、土製品、石製品、礫、  
粘土塊、炭化材、炭化種子

整理箱 22 箱（うち土器類、土製品、石製品、礫の合計は 13 箱）

(2) 発掘調査時の記録作成作業内容

調査区全体図、地形測量図、調査区土層図、遺構配置略図、遺構実測図、遺物出土状況図、各種測

量ポイントは世界測地系の国家座標を基準としたトータルステーションによる記録作業を基本としている。ファイル形式は PDF・DXF・AI 形式である。

その他、手取りによる遣り方測量を併用。記録写真 (JPEG・NEF 形式)、空中写真 (JPEG・CR2 形式)、図面・遺物・写真台帳等 (PDF・Excel 形式)

## 6 業務内容

出土品整理作業は、発掘調査で明らかになった遺跡の内容を踏まえ、考古学的な観察、分類を適切に行った上で、資料的価値に応じて報告書に掲載するものを適切に選択し、作業の各工程において、考古学的な知見と手法に事づく適切な方法により行う。

出土品整理作業の内容は、次の事項について実施する。なお、本業務では報告書掲載図の作成までとし、報告書の原稿執筆、編集及び印刷製本は含まない。

### (1) 出土品の整理

洗浄、注記、分類、接合、補強、実測、拓本、重量・法量等計測作業、遺物台帳（報告書掲載用観察表含む）作成、保存処理、自然科学分析を行う。

#### ア 洗浄・注記

- ①遺物を正確に観察できるように、付着している土壌等を洗浄して乾燥させる。
- ②脆弱な遺物、金属製品等洗浄に適さない遺物は慎重に取り扱う。
- ③注記に関する注記内容、用具、用材については相模原市教育委員会（以下、「市教委」という。）と受注者の双方協議の上決定する。
- ④作業効率を高めるための機器使用は可とするが、市教委の承認を得ること。

#### イ 分類・計測・接合・復元・台帳作成

- ①出土遺物は、調査基準に基づき分類、計測をした上で、可能な限り接合する。
- ②全ての出土遺物の内訳（種別、部位等）を台帳（Excel 形式）に取りまとめる。
- ③全体形状がうかがえる土器等については、接合関係を台帳に記録したのち、不足部分を石膏等で補填し、彩色を施し復元する。

#### ウ 実測・拓本・トレース

- ①実測資料は調査基準に基づき、出土遺物の全体像を把握できるように、典型的、代表的、特徴的なもの等を分類内容と出土量を勘案し、調査基準を参考に選択する。選定した実測資料は、市教委の承認を得て実測作業を行うこと。作成にあたっては、相模原市教育委員会既刊の報告書等に準拠する。原寸実測を基本とするが別に指示する場合がある。
- ②拓本を必要としたものは、実測図と拓影を組み合わせた形で浄書する。
- ③デジタルトレース作成にあたっては、相模原市教育委員会既刊の報告書等に準拠する。使用するソフトは Adobe 社の Illustrator2025 もしくは同バージョンで編集可能なものとする。

#### オ 写真撮影及び画像処理

- ①実測した遺物の写真撮影。デジタル一眼レフカメラ（撮像素子フルサイズもしくは APS-C サイズ・有効画素数 2,000 万以上）で撮影する。RAW データで記録し、TIFF データに現像保存。遺物実測図に則して個別に撮影する。土器復元資料は単体撮影。土器破片資料・遺構・種別等ごとに集合撮影。
- ②撮影した遺物写真は画像編集ソフトを用いて、縮尺を合わせて切り抜き等の必要な画像処理を行う。
- ③写真整理を効率的に行うため、写し込み及び撮影台帳の作成を併せて行う。

## カ 遺物観察表作成

出土遺物の種別、法量、残存率、整形技法、胎土、焼成、色調、混入物その他の所見について観察表等を Excel 形式で作成する

## (2) 報告書用図版作成

ア 以下の種類の挿図を作成する。作成にあたっては、相模原市教育委員会既刊の報告書等に準拠する。

	挿図	縮尺	備考
1	遺跡位置図	1/50,000	国土地理院発行の地形図を使用
2	周辺地形区分図	縮尺不同	遺跡位置を示す。
3	周辺の遺跡分布図	1/25,000、1/10,000	国土地理院地形図を使用して、神奈川県遺跡分布地図を作成する。
4	既往の調査位置図	1/2,500、1/5,000	相模原市発行の地形図を使用。周辺の調査配置図を作成。
5	事業計画と調査区配置図	1/500	事業計画図に調査区の位置を示す。
6	基本層序図	1/40	現場作成図面を基に精査・浄書
7	遺構配置図	1/200	現場作成図面を基に精査・浄書

## イ 遺物図版の作成

- ①デジタルトレースした遺物図を、出土位置、種別ごとに A4 判にレイアウトする。成果品は Adobe 社の Illustrator2025 もしくは同バージョンで編集可能なものとする。
- ②立面実測した土器は 1/4、拓影図は 1/3、金属製品は 1/2、石器、石製品、土製品は 2/3～1/6 を原則とした縮尺とし、対応するスケールバーを挿入すること。
- ③奈良～平安時代の竪穴住居址出土の遺物については、器種別の平面分布図・土層断面垂直分布投影図を作成する。

## ウ 遺構図版等の作成

- ①現場作業において方眼紙に手書きした原図のデジタルトレースを行う。作成にあたっては、相模原市教育委員会既刊の報告書等に準拠する。  
デジタルトレースは Adobe 社の illustrator2025 もしくは同バージョンで編集可能なものとする。
- ②前項のトレースデータおよび現場作業での測量記録データを編集し、遺構図を作成する。
- ③成果品は Adobe 社の Illustrator2025 もしくは同バージョンで編集可能なものとする。浄書上の細部に検討を要する場合は、協議すること。

## エ 写真図版の作成

- ①報告書に掲載するための遺構・遺物の写真図版を作成する。
- ②報告内容を説明するための写真を集成加工する。
- ③掲載範囲・縮小率・掲載位置などを明記し、割り付けと対応させる。

## (3) 自然科学分析

- ア 自然科学分析は、奈良～平安時代の竪穴住居址より出土した植物遺体（炭化材、炭化種子）の樹種・種実同定を行う。
- イ 分析の方法、結果および考察などの報告書を作成する。分析データはすべて CD に保存し、打ち出

しした報告書原稿と共に1部納品すること。

- ウ 分析成果は、発掘調査報告書に掲載するため、原稿・図版等の入稿について市教委の指示に従い、発掘調査報告書刊行に協力すること。

○ 対象試料の数量

炭化材 35 点、炭化種子 2 点

(4) 金属製品保存処理、蛍光 X 線分析

- ア 金属製品の腐食を防ぐため、樹脂含浸皮膜防錆法による保存処理を行い、安定した状態で保管・活用が可能な状態とする。保存処理に当たっては、以下の対象資料の状態に最も適した保存処理の進め方を検討して実施すること。

- イ 対象資料の状態を確認し、保存処理前の写真撮影及びX線撮影を行うこと。保存処理後も同じアングルで写真撮影すること。

- ウ 金属製品のうち、接合可能な資料については接合すること。接合箇所の亀裂や欠損箇所の復元が必要な場合には合成樹脂を充填して補強する。また、充填・復元箇所は、顔料、アクリル樹脂エマルジョンを用いて補彩を行うこと

- エ 金属製品のうち、発注者が指定した資料について蛍光 X 線分析を行い、資料に含まれる元素の種類と量を分析すること。

○蛍光 X 線分析対象資料一覧

	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	出土遺跡	出土遺構
1	鉄製品	錘	5.0	2.3	第2次調査	SI01

- オ 分析の方法、結果および考察などの報告書を作成する。分析データはすべて CD に保存し、打ち出した報告書原稿と共に1部納品すること。

- カ 分析成果は、発掘調査報告書に掲載するため、原稿・図版等の入稿について市教委の指示に従い、発掘調査報告書刊行に協力すること。

○保存処理対象資料一覧

	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	出土遺跡	出土遺構
1	鉄製品	釘か	4.5	0.5	第2次調査	P19
2	鉄製品	錘	5.0	2.3	第2次調査	SI01
3	鉄製品	不明	2.6	0.3	第2次調査	SI03
4	鉄製品	不明	3.0	1.0	第2次調査	SI03
5	鉄製品	刀子	5.1	1.0	第2次調査	SI03
6	鉄製品	鉸具	5.7	4.0	第2次調査	SI03
7	鉄製品	不明	5.8	2.0	第2次調査	SI05
8	鉄製品	釘	15.0	2.8	第2次調査	SI05
9	鉄製品	鉄滓か	5.8	2.5	第2次調査	SI05
10	鉄製品	不明	7.6	3.2	第2次調査	SI101
11	鉄製品	不明	4.2	1.8	第2次調査	SI101

## 7 環境配慮

- (1) 「相模原市環境方針」の主旨を踏まえ、業務の実施において省資源・省エネルギーに取り組む等、環境への負荷の低減を図るとともに、環境関連法令の規制等を遵守すること。
- (2) 市への提出書類及び添付資料については、原則として再生紙を使用すること。
- (3) 業務実施時に車両を使用する場合は、アイドリングストップの実施を徹底し、他者に運搬等を委託する場合においても、アイドリングストップの実施を周知するよう努めること。
- (4) 業務の実施においては、廃棄物の減量化・資源化に取り組むとともに、廃棄物の処理にあたっては、関連法令を遵守し、適正に処理すること。

## 8 著作権

本業務委託により作成した記録図面類は、相模原市が刊行する発掘調査報告書に使用し、「調査基準」の「11 報告書及び記録図面類の著作権」の趣旨に基づき、国民が広く活用できるものとする。

## 9 成果品

- (1) 納入成果品は次のとおりとし、業務名等必要事項を記載し電子データと紙出力物を正副 2 部提出すること。
  - ア 遺物実測原図（方眼紙等への手書き図）
  - イ 遺物実測トレース図
  - ウ 遺物台帳、遺物観察表
  - エ 遺物写真および撮影台帳
  - オ 挿図、遺物、遺構、写真図版
  - カ 自然科学分析結果報告書
  - キ 保存処理（蛍光 X 線分析）結果報告書
  - ク その他本業務で作成した電子データ
  - ケ 成果品目録一覧表
- (2) アの原図、出力図は図面ファイルに収納すること。
- (3) イ～ケの電子データについては SSD 等の電子記録媒体に格納し、紙出力物については A4 判に印刷しファイルに収納すること。
- (4) 発注者は、受注者から成果品の納品を受けた場合には、直ちにその内容等进行检查し、不備が認められた場合、修正等の指示ができるものとする。

## 10 その他

本業務の実施にあたり、本仕様書に定めのない事項は、発注者と受注者の双方協議の上決定する。

内訳書

令和7年度旧東清掃事業所解体工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に係る出土品等整理作業補助業務委託

名称	単位	数 量	単 価	金 額	備 考
洗浄・注記・分類・計測	箱	13			
接合・復元	箱	11			
遺物実測(拓本・トレース・観察表含む)					
土器類	点	110			
金属製品	点	11			
石製品	点	9			
土製品	点	12			
遺物写真撮影	カット	145			
自然科学分析	式	1			炭化材35点 炭化種子2点
保存処理(蛍光X線分析1点含む)	式	1			金属製品11点
報告書用掲載図版作成					
挿図	図	7			
遺構	頁	30			
遺物	頁	20			
写真	頁	20			
打合せ協議	回	3			
小計					
諸経費	式	1			
合計					
消費税及び地方消費税額	%	10			
総合計					

## 相模原市環境方針

本市は、「相模原市環境基本条例」の基本理念に則り、望ましい環境像「人と自然が共生するまち～市民と築く、地域循環共生都市さがみはら～」を実現するため、事務事業の実施に当たり、以下のとおり、取組目標を設定し、継続的改善を推進します。

- 1 「相模原市環境基本計画」に基づき、環境関連施策を推進し、事務事業の実施に伴う環境負荷の低減を図ります。
- 2 地球温暖化対策や循環型社会の形成などを推進するため、再生可能エネルギー等利用設備の導入、省エネルギー機器の導入、公用車適正利用の推進、ごみの減量化・資源化の推進、資源・エネルギーの有効活用に取り組みます。

令和2年4月1日

相模原市長

### 【相模原市環境基本条例 基本理念】

- 1 環境の保全及び創造は、市民が健康で安全かつ文化的な生活を営むことのできる自然と調和の取れた豊かな環境を確保し、及び向上させ、並びに将来の世代へ継承していくことを目的として行うものとする。
- 2 環境の保全及び創造は、環境に関する資源の有限性を認識するとともに、その適正な管理及び利用を図り、もって環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築することを目的として行うものとする。
- 3 環境の保全及び創造は、市、事業者及び市民相互の協力の下に行うものとする。
- 4 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに市民の健康で安全かつ文化的な生活を将来にわたって確保する上で極めて重要であることから、積極的に推進するものとする。